

## 書籍「室内環境の事典 - 健康で快適な暮らしを支える科学」が出来るまで

関根 嘉香

東海大学理学部化学科

この夏、一般社団法人室内環境学会編「室内環境の事典 - 健康で快適な暮らしを支える科学」が刊行されることになりました。本学会編集の4冊目の書籍となります。

朝倉書店様から「大気環境の事典の姉妹編を作りませんか？」と打診を頂いたのが2020年4月。この時期、新型コロナウイルス感染症が日本でも広がり始め、多くの人が“ステイホーム”を余儀なくされ、室内環境に対する意識が高まっていたことが背景にあります。一方、先行する大気環境学会編「大気環境の事典」は売れ行き好調とのことで、実は、筆者も自分用と学生の閲覧用に2冊購入して愛用していました。室内環境学会では、これまでに「室内環境学概論」、「住まいの化学物質 - リスクとベネフィット」、「室内環境における微生物対策」を刊行しましたが、その後しばらく間が空いていました。そこで、当時の学術委員長、出版委員長、事務局長にご相談して企画書を作成、出版社内でご審議頂き、2020年6月、出版に向けてスタートすることになりました。



室内環境中には、微生物、化学物質や微粒子、音・光・熱などの物理的要素が存在します。室内環境問題が多様かつ複合化するにつれ、学問分野を越えた学際的な取り組みが必要となります。そこで、これら幅広い分野をカバーするため、室内環境学の各分野で活躍されている先生方にお声がけして編集委員会を構成し、目次案や執筆候補者などを検討しました。本書は全8章構成となり、各章の表題（編集担当者、敬称略）は次の通りです。第1章：総論（関根嘉香・中島大介）、第2章：生物・微生物（橋本一浩）、第3章：化学的要素（篠原直秀・池田二郎・徳村雅弘）、第4章：物理的要素（山口一）、第5章：健康影響（東賢一）、第6章：研究手法（橋本一浩・篠原直秀・山口一・東賢一）、第7章：対策技術（鍵直樹）、第8章：実践（関根嘉香）。本書は、研究者、実務者、学生らが自らの関心を糸口に室内環境を総合的に捉えることが出来るよう、一つの項目について見開き2ページの読み切り形式で解説するものです。例えば「コロナウイルス」「ホルムアルデヒド」「熱ストレス」など室内環境に関する全186項目について、本学会会員をはじめとする総勢115名の専門家の先生方にご執筆いただきました。

出版計画書を見返しますと、計画がスタートしてから26か月での刊行が目標と記されています。当初はずいぶんのんびりしたスケジュールと思われましたが、執筆者115名とのやりとり、集まった御原稿に対する複数回の査読・校正など、これらを時間差で行うのは容易ではなく、また出版作業中にも予定外の調整が発生し、最終的に約3年の月日を要することになりました。しかしながら、内容は熟成されたものになっており、さらに本文全8章に加えて、カラー口絵、コラム、付録および資料編が加わり、質・量ともに充実したものになっていると自負しております。尚、本稿執筆中も詰めの編集作業が続いており、現時点ではA5版・約450ページ、価格13,200円（税込）の予定ですが、最新情報はホームページ等でご確認ください。

本書の刊行に際し、真摯にご尽力賜りました編集委員会の先生方、学会事務局の色摩操氏、快くご執筆いただいた専門家の先生方、また企画から刊行まで長期にわたりご指導をいただいた朝倉書店様に心から御礼を申し上げます。本学会会員の皆さまには、是非とも座右の書として本書をご活用いただきたいと思います。